

51歳、夢かなえた 鉄道の運転士になりたい 紀州鉄道

白木琢歩 2017年1月12日05時45分

シェア

1181

ツイート

list

ブックマーク

13

メール

印刷

紙面にプラス

朝日杯将棋オープン戦

熊本で開催中。持ち時間各40分の早指し対局です。

朝日杯
将棋
オープン戦

紙面にプラス

デジタル限定



【動画】51歳で鉄道の運転士になった紀州鉄道の大串昌広さん＝白木琢歩撮影



運転席に座る大串昌広さん。幼い頃からの運転士になる夢を51歳で実現させた＝和歌山県御坊市内

鉄道の運転士になりたい――。幼い頃に抱いた夢を、51歳でようやく実現させた男性が、全長2・7キロで「西日本一短い私鉄」として知られる紀州鉄道（和歌山県 御坊市）にいる。駅長などいくつもの業務の合間を縫い、ハンドルを握る。

特集：テツの広場

JR御坊駅の0番ホーム。ディーゼルエンジンを響かせ、1両編成のレールバスがすべり込んだ。ワンマン車両を運転していたのは、紀州鉄道の紀伊御坊駅長、大串昌広さん（51）。運転席に座ってわずか半年の「新人」だ。なぜ駅長が運転士になったのか。



[PR]

大串さんは紀州鉄道の沿線で生まれ育った。毎日見る列車にあこがれ、「幼稚園の頃には、運転士になりたいと思っていた」と振り返る。夢を追い、高卒後は大阪市交通局に就職。地下鉄の駅員をしながら運転士を目指したが、父親が体調を崩す。21歳で帰郷し、家業の精肉店を手伝いながら、紀州鉄道を盛り上げるイベントに関わるなどしてきた。

2014年、鉄道好きを見込まれて、紀州鉄道に入社。グッズ開発などを幅広く手がけていた15年秋、運転士試験の受験を上司から打診され、決意を固めた。「チャンスは一度だけ」と睡眠時間を削って猛勉強を開始。法規など3科目の学科試験と、150カ所に及ぶ車両点検など厳しい実技試験に一発で合格。16年6月、国家資格「甲種内燃車」の免許を取得した。

16年春からは駅長も務めているため、運転席に座るのは月に数回。「お客さんにはお年寄りが多いので、転倒しないようブレーキ操作には特に気を使います」と大串さん。「一人でも多くの方に乗ってもらえるよう、安全第一で頑張りたい」と話している。（白木琢歩）

二刀流 大谷翔平／セイコー アストロン

日本一までの軌跡。大谷の次なる野望は

朝日新聞とマイナビ転職がタッグ組む

厳選した求人情報をお届けします！

オリラジ中田敦彦さんが熱弁！

「旦那は育成型ロボット」その真意とは

テリー伊藤が日本で一番好きな温泉宿？

全国のホット温まる温泉情報が満載！

自分の体の状態を知ることから始めよう

自ら測り健康を守る 自測自健のススメ

ニュース写真・動画の受付窓口

朝日新聞映像報道部宛：photo@asahi.com

メール送信に際しては、連絡先の住所・電話番号を明記ください。また、下記連絡先にご一報ください。東京本社映像報道部 03-5541-8518

全日本写真連盟

朝日新聞社が後援する写真愛好家の全国組織です。



朝日新聞映像報道部 公式ツイッター

